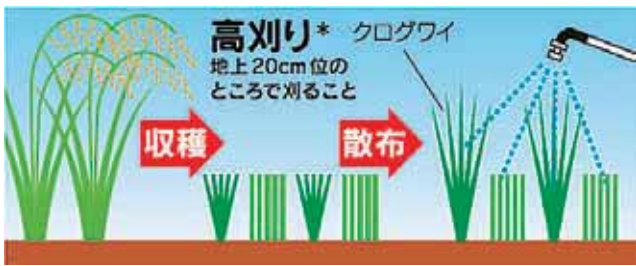


▼水稲刈取後

雑草防除



■収穫時期が遅く、気温が低い場合には、高刈りすることで散布しやすくなります。

刈取後の水田に残った雑草には、ラウンドアップマックスロード50倍液を散布しましょう。クログワイなどが生えている圃場では、地上20cm位で刈り取ると薬剤を散布しやすくなります。ラウンドアップは、寒くなって雑草の生長が鈍ると効果が低くなるので、10月中には散布する方が効果が高くなります。なお、散布してから10日間以上経ってから耕起しましょう。

▼年内

けい酸と鉄分の補給

J A大阪北部管内では、けい酸や鉄分が少ない水田が多くあります。土壤改良資材を使ってけい酸や鉄分を補給しましょう。

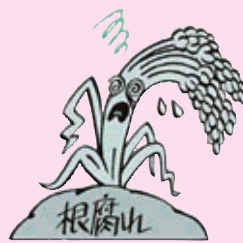
けい酸質資材



けい酸が多いと茎や葉が硬くなり、病気や虫にも強くなります。

水田にけい酸が十分にあると茎や葉が硬く丈夫になり、病気や虫の被害が少なくなります。けい酸はもみ殻や稲わらのすき込むことで補充できますが、不足分はとれ太郎やケイカルなどのけい酸を含む資材を施用しましょう。

含鉄資材



鉄分が不足すると硫化水素が発生し、根腐れを引き起こしやすくなります。

水田では鉄が少なくなると硫化水素が発生しやすくなり、根ぐされなどを引き起こし、いわゆる秋落ちを生じることがあります。秋落ちを防ぐために、ミネカルやエゴ鉄ちゃんなどの資材を施用しましょう。

▼年内

土づくり

寒くなるとすき込んだ稲わらが腐りにくくなるので、少なくとも年内までに、稲わらのすき込みを終わらせましょう。石灰窒素を1反あたり15~20kg撒いてからすき込むと、稲わらが腐りやすく、来年作での硫化水素の発生も少なくなります。すき込んだ後は、雑草防除と排水性を高めるためにも谷上げまで行いましょう。



すき込み後は谷上げを行う

宮農 インフォメーション



EINOU information

水稲収穫後の農作業